

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	まちづくり推進事業	担当課	総合政策課
事業内容(簡潔に)	地域の課題を住民などが解決するための補助金を交付する。 (旧韮崎市公募・提案型補助金交付事業 ～元年度)		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	市民が主役の持続可能なまちづくり	
	政策	市民の力、地域の力が活きる協働のまちづくり	
	施策	市民等との協同の推進	
関連する個別計画等		根拠条例等	地域まちづくり活動補助金交付要綱

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	市民主体のまちづくり活動の推進・担い手の育成の支援を行い、市民、団体、事業者と行政が協働したまちづくりを推進する。
事業の手段	○令和2年度～旧制度を見直し新制度として、活動支援 手続：①広報及びHPによる募集②申請書提出（団体）③審査・交付決定（市）④事業実施・実績報告（団体） ⑤補助金確定（市） 対象経費：講師謝礼・備品・消耗品・旅費交通費・印刷製本・役員費・使用料等 補助金額等：上記対象経費の9/10以内 立上げ支援：上限30万円（1年以内設立団体・1回のみ） 事業支援：上限50万円（2回目：40万円、3回目：30万円） ＊同一事業について年1度1回まで。3回限度
事業の対象	市内に活動拠点を持つ市民団体（韮崎市の地域課題を解決するため住民と連携して活動する団体、構成員3名以上）。

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
財源内訳	A 事業費 (千円)	77	225	715
	国・県支出金			
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	77	225	715
B 担当職員数(職員E) (人)		0.02	0.02	0.02
C 人件費(平均人件費×E) (千円)		147	134	131
D 総事業費(A+C) (千円)		224	359	846
主な事業費用の説明	事業費＝補助金			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 申請件数(件)	申請件数(件)及び申請団体名 H30 逸翁・耳庵研究所 R1 逸翁・耳庵研究所 穴山ふれあいホール地域交流協議会 R2 なかまフィールド・うじゅうの森	1	2	1
	2 周知方法(種類)	(広報・市HP・冊子作成・個別案内)	2	2	4
	3				
妥当性		<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明	1	これまで、申請団体の固定化が懸念されていたが、新制度開始から新規団体による申請があった。件数が、少ないのはコロナ禍等によるところが大きい。			
	2	広く周知するため、広報掲載や市HPを活用している。また、令和2年度から新制度開始に伴い、申請案内冊子の作成や各団体への制度案内を積極的に行った。			
	3				

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	活動回数(回)・参加者数(人) H30 逸翁・耳庵研究所 ・活動回数 1回 ・講演会参加者数 40人 R1 逸翁・耳庵研究所 ・講演会 1回 ・講演会参加者数 50人 ○穴山ふれあいホール地域交流協議会 ・活動回数 7回 ・参加者数 延560人 R2 なかまフィールド・うじゅうの森 ・イベント回数 10回 ・参加者数 延47人	1 40	8 610	10 47
	2	参加者一人当たり助成額	1,925	369	15,213
	3	活動回数当たり助成額	77,000	23,572	71,500
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	市民活動は、多く参加者数が確保され、必要な活動も行われており、有効なまちづくり活動支援に資していると思われる。			
	2	自主的な活動を創出する原動力となった団体もある。また活動内容もフォーラムの開催や研究誌の発行など内容により参加規模も変動し、特に令和2年度は、コロナ禍により参加者数が少なかったことと、新制度では団体が持続的な活動に必要な事業も対象としたため、一人あたり助成額の幅が大きくなっている。			
	3	活動内容もフォーラムの開催や研究誌の発行などにより活動回数も変動するため、1回当たりの助成額としては妥当と考える。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)				
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)				
	令和3年度の改善計画(今後の事業展開説明) 令和元年度に補助金の見直しを行い令和2年度から新制度にて、申請を受け付けた。令和2年度において、コロナ禍や制度の浸透不足により、件数は低調であったが、各団体などに制度案内を行った結果、令和3年度以降の活用に意欲を示す団体が多かったことから、提案を希望する団体への相談及び申請手続きについても支援を行い、多くの市民団体が地域の課題解決のために活動できる素地を築いていきたい。 (R3.7末現在の採択件数:新規5件、継続1件)				
過去の改善経過	改善の経過	令和元年度: まちづくり活動補助金の見直し 【主な見直し内容】	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止		
	直近の評価結果	内部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
		外部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
改善案	令和2年度から新制度がスタートし、初年度は1件と低調であったが、市民からの反応は高いことから、周知と相談を丁寧に行い、当面、制度の浸透を図っていく。				
課長所見	令和2年度から補助金の見直しを行っており、活用団体が増える見込みである。周知に努め、市民の手による自主的なまちづくりにつなげたい。				